

ふ ちゅう まち
富山県婦中町

かく がん じ まえ
各願寺前遺跡発掘調査報告Ⅱ

2004年3月

婦中町教育委員会

序

婦中町は富山県のほぼ中央に位置し、西部は呉羽丘陵が連なり、そこからは東に立山連峰の雄大な姿を仰ぎ見ることができます。東部には神通川・井田川が流れ、その豊かな水に育まれた水田地帯が広がる縁豊かな地であります。古来から人々にとって大変暮らしやすい場所であったようで、丘陵付近を中心に、県内でも屈指の埋蔵文化財の宝庫であることが知られています。

本書で報告する各願寺前遺跡は、呉羽丘陵上の麓に広がる、縄文・古代・中世の集落遺跡です。この度、婦中町自然公園（桜の丘）雨水対策工事に先立ち調査致しました。約2ヵ月にわたる調査では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡・土坑など、中世の掘立柱建物跡・溝・土坑などを発見しました。調査区のすぐ南西側には、大宝元年（701年）天武天皇第七皇子一品親王（仮性聖人）の創立とされる古刹北觀山各願寺があります。また、過去3次にわたる発掘調査では、各願寺に伴うと考えられる遺構・遺物が見つかっております。今回の調査では、古くから大きな寺院の下で開けた地での生活の一端を窺い知ることができる新資料を得ることができました。

本書はこうした調査の成果をまとめたものであり、今後の調査研究を進める上で参考にしていただきますとともに、埋蔵文化財のご理解に役立てていただければ幸いと思います。

おわりに、地元の方々をはじめ、調査に多大なご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成16年3月

婦中町教育委員会

教育長 井 上 亮 二

例　言

1 本書は、富山県婦負郡婦中町新町地内に所在する各願寺前遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。

2 発掘調査は、婦中町自然公園（桜の丘）雨水対策事業に先立ち、婦中町教育委員会が実施した。

3 調査期間・面積は以下のとおりである。

試掘調査　平成14年4月22日～平成14年4月23日　調査面積　40.5m²

試掘調査　平成14年11月19日～平成14年11月20日　調査面積　65m²

本調査　平成15年9月24日～平成15年12月4日　調査面積　693.8m²

4 現地調査・遺物整理・報告書作成業務の体制は以下のとおりである。

調査事務局：婦中町教育委員会生涯学習課　課長　野田　洋、文化係長　矢部　幸子

現地調査・整理業務担当者：主任　大野　英子、主事　細辻　嘉門

現地調査・整理業務参加者：河竹　明子、守田　睦（以上嘱託職員）

生田　寿美子、土田　澄子、村上　千春（以上整理作業員）

5 本書の執筆・編集は細辻、河竹が行った。文責は文末に記した。

6 遺物写真撮影は、撮影スタジオ・機材等を福岡町教育委員会に借り、同教委の栗山雅夫氏のご指導を得た。また、現地調査・資料整理にあたっては、次の方々から有益なご教示と助言を得た。記して深く謝意を表したい。

植木　真吾、新宅　輝久

7 調査期間中、地区総代はじめとした地元の方々より多大なご協力を得た。記して厚く感謝申し上げたい。

8 出土遺物及び記録資料は婦中町教育委員会で保管している。

凡　例

1 図で使用する方位は真北、水平基準は海拔高、経緯度の数値は世界測地系である。

2 遺構の略号は次のとおりである。

S B：掘立柱建物、S A：櫛、S D：溝、S K：土坑、S P：柱穴、S X：その他の遺構

3 土色・土器胎土色は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版 標準土色帖 2001年版」による。

4 平面図及び写真図版の遺物番号は、出土遺物番号実測図の番号と一致する。

5 遺物観察表は以下のとおりである。

「実測番号」欄は出土遺物実測図の番号と一致する。

「口径遺存」「底径遺存」欄は、残存率を12分割した同心円で読み取った数値で表示してある。

「胎土」欄は、「密・やや密・やや粗・粗」の4段階で示してある。

「焼成」欄は、「良好・やや良好・やや不良・不良」の4段階で示してある。

6 出土遺物実測図版中の網掛け部分が示すものは、特に断りがない限り以下のとおりである。



煤



黒色処理



須恵器・珠洲の断面

7 遺物写真図版の縮尺は統一していない。

本文目次

序文

例言・凡例

目次

第1章 遺跡の立地と歴史的環境	1
第2章 調査に至る経緯と経過	3
1 過去の調査	3
2 調査に至る経緯	3
3 調査の経過	3
第3章 調査の概要	5
1 調査区と座標軸の設定	5
2 基本層序	5
3 遺構	5
4 遺物	12
第4章 まとめ	15
参考文献	15

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 周辺の遺跡分布図	第8図 SK02・SK167平面図・断面図、
第2図 過去の調査区位置図	SK290出土状況図・断面図、
第3図 基本層序模式図	SB327・334・SA333平面図・断面図
第4図 調査区及びグリット配置図	第9図 器種分類図
第5図 遺構配置図	第10図 時代別遺構配置図
第6図 SB324・325・326平面図・断面図	第11図 遺物実測図(1)
第7図 SB328・329・330・331・332平面図・断面図	第12図 遺物実測図(2)
	第13図 遺物実測図(3)
	第14図 遺物実測図(4)

表目次

表1 周辺の遺跡一覧
表2 遺物観察表(1)
表3 遺物観察表(2)
表4 遺物観察表(3)

第1章 遺跡の立地と歴史的環境

婦中町は富山県のほぼ中央、神通川の左岸に位置する。北は県庁所在地の富山市と接し、近年はベットタウン化に伴い宅地開発等が著しい。地勢はおおまかに西の丘陵部と東の平野部に二分される。平野部は神通川とその支流の井田川・山田川によって形成された扇状地である。丘陵部は呉羽丘陵の南に連なり、丘陵裾部は一部が河岸段丘となる。

本書で報告する各願寺前遺跡（1）は、富山県婦負郡婦中町新町地内に所在する、縄文・古代・中世に至る複合遺跡である。呉羽丘陵南西部の羽根丘陵の東側裾野に位置し、東に向かって緩やかに傾斜する。調査区付近は標高約63mを測る。遺跡の現況はおもに宅地、水田、畠地である。

本遺跡内西側には高野山真言宗北叡山各願寺がある。大宝元年（701年）天武天皇第七皇子信院…品親王（仏性聖人）の創立とされ、伝教大師の教えにより法相宗から天台宗に改めた。建武二年（1335年）に越中守護普門後清と国司中院定清の戦いによる兵火に巻き込まれ一旦失われたが、大永三年（1523年）に玄弘僧都により再建され、真言宗に改宗して現在に至るとされる。現存する建物は新しく往時を偲ぶことはできないが、本尊の弥勒菩薩坐像はもと薬師如来坐像で藤原時代中期の作と推定されていること、建武年間（1334年～1338年）京都の比叡山延暦寺に赴こうとした関東からの縁徒を各願寺僧が阻んで、叡山衆と争い、時の天皇が派遣した勅使をも殺害したという言伝え、時代は整合しないが、殺害された勅使を葬った墓所が勅使塚古墳（3）で、その從者を葬ったのが五ツ塚古墳群（4）、近くにある王塚古墳（2）は仏性聖人の墓所であるという言伝えや、町指定文化財の不動明王像（絹本著色）、寺領寄進状（前田利次印）、前田正甫各願寺觀花の跡が現存し、これらのことから、古い時代よりこの地域の仏教文化の中心を担い、かなりの権勢を誇ったことがうかがえる。

本遺跡のすぐ北には新町Ⅱ遺跡（35）があり、昭和60年度の本調査で古代の4間×1間、5間×2間の大型掘立柱建物2棟、中世の周辺に溝を巡らせた4間×1間の大型掘立柱建物などが検出されている。本遺跡の南東250mには、弥生時代終末期の集落として著名な千坊山遺跡（5）がある。一説には幾千坊もの末寺が建ち並んでいたため、「千坊山」と呼ばれるようになったということである。その他、周辺一帯は遺跡が密集し、特に弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての遺跡群は集落と墓域がセットで良好に保存され、当時独特の文化を持った地域集団の動きを捉えることができる貴重な遺跡群である（第1図）。

No.	地 備 名 称	種 别	時 代	No.	遺 跡 名 称	種 別	時 代	No.	遺 跡 名 称	種 別	時 代
1	各願寺前遺跡	集落・散在地	縄文・古代（平安・良賀）・中世・近世	22	平岡遺跡	集落	古墳	43	家老屋敷跡	山城	中世
2	土壤古墳	前方後方墳	古墳	23	小長井古墳群	古墳	古墳	44	長沢遺跡	山城	中世
3	鶴見原古墳	前方後方墳	古墳	24	宮ノ高島遺跡	散在地	古墳	45	鶴見原遺跡	山城	中世
4	五ツ塚古墳群	円墳	古墳	25	小長井Ⅱ遺跡	散在地	縄文・古代・中世・近世	46	御坂Ⅰ遺跡	古墳	縄文・古代
5	千坊山遺跡	集落・石垣跡・形状遺構	石垣・鐵門・烽火・中世・	26	二木本遺跡	散在地・中古?	縄文・中世?	47	外堀Ⅰ遺跡	集落	縄文・中世・近世
6	向野坂	房式古墳形積石塚	佐代・中世	27	二木Ⅱ遺跡	古代墓・中古・近世?	古代・中世・近世	48	龍在寺遺跡	寺社	中世
7	六丁の塚	西隅古墳形積石塚	佐代・中世	28	二木Ⅲ遺跡	散在地	縄文・古代・近世	49	外北山遺跡	散在地	不明
8	弓削古墳	前方後方墳	系傳?	29	新町Ⅰ遺跡	散在地	古代	50	森崎古墳群遺跡	散在地	縄文
9	鍛冶町遺跡	散居	佐生・古墳・古代・中世・近世	30	下邑遺跡	散在地	縄文・古代・中世・近世	51	富山市野路遺跡	散居	縄文・古代・中世
10	鍛冶町遺跡	田舎町形積石塚	佐生	31	城跡	城壁	中世	52	下瀬山遺跡	散在地	不明
11	高崎山遺跡	集落・山城・西側	（高崎山墓群）	32	下越Ⅰ遺跡	散在地	古墳・古代	53	下瀬井	山城	中世
12	解山遺跡	集落・山城	佐生・中世	33	新町Ⅱ遺跡	散在地	古代	54	赤坂井	山城	中世
13	高崎寺駆道遺跡	集落	株生	34	新町Ⅲ遺跡	中古?	中古?	55	森町山井	山城	中世
14	笠幡遺跡	散居・散在地	佐生・古代・中世・近世	35	新町Ⅳ遺跡	散在地	縄文・古代・中世・近世	56	ゴダイ塚	その他の	中世
15	笠幡千石古墳群	前方後方墳・少頭・円墳	古墳	36	新町Ⅴ遺跡	穴? 岩穴?	古墳?	57	千里片坂遺跡	散在地	不明
16	南郷Ⅰ遺跡	集落	佐生・古墳・古代・中世・近世	37	御坂北遺跡	散在地	不明	58	大鍋山遺跡	城壁	中世
17	新町Ⅱ遺跡	集落・散在地	御坂跡・鐵門	38	千葉原南北古墳群	散在地	縄文	59	千葉原遺跡	散在地	古代
18	越后刀削跡	散在地	桃文	39	蜜谷城跡	城址	中世	60	千里山遺跡	散在地	古代・中世・近世
19	大間口遺跡	散居地	不明	40	鶴谷保食園前遺跡	散在地	縄文・佐生?	61	千葉原遺跡	散在地・集落?	古代・中世・近世
20	小長井北塚	散居?	不明	41	猪名谷分霧峯	山地?	中世?	62	南部Ⅰ遺跡	集落	中世
21	小長井Ⅰ遺跡	集落	古代・中世(鉄器)	42	鏡坂Ⅰ遺跡	散在地	中世	63	上青川Ⅰ遺跡	集落	弥生・古代・中世・近世

表1 周辺の遺跡一覧



第1図 周辺の遺跡分布図(1/20,000)

第2章 調査に至る経緯と経過

1 過去の調査

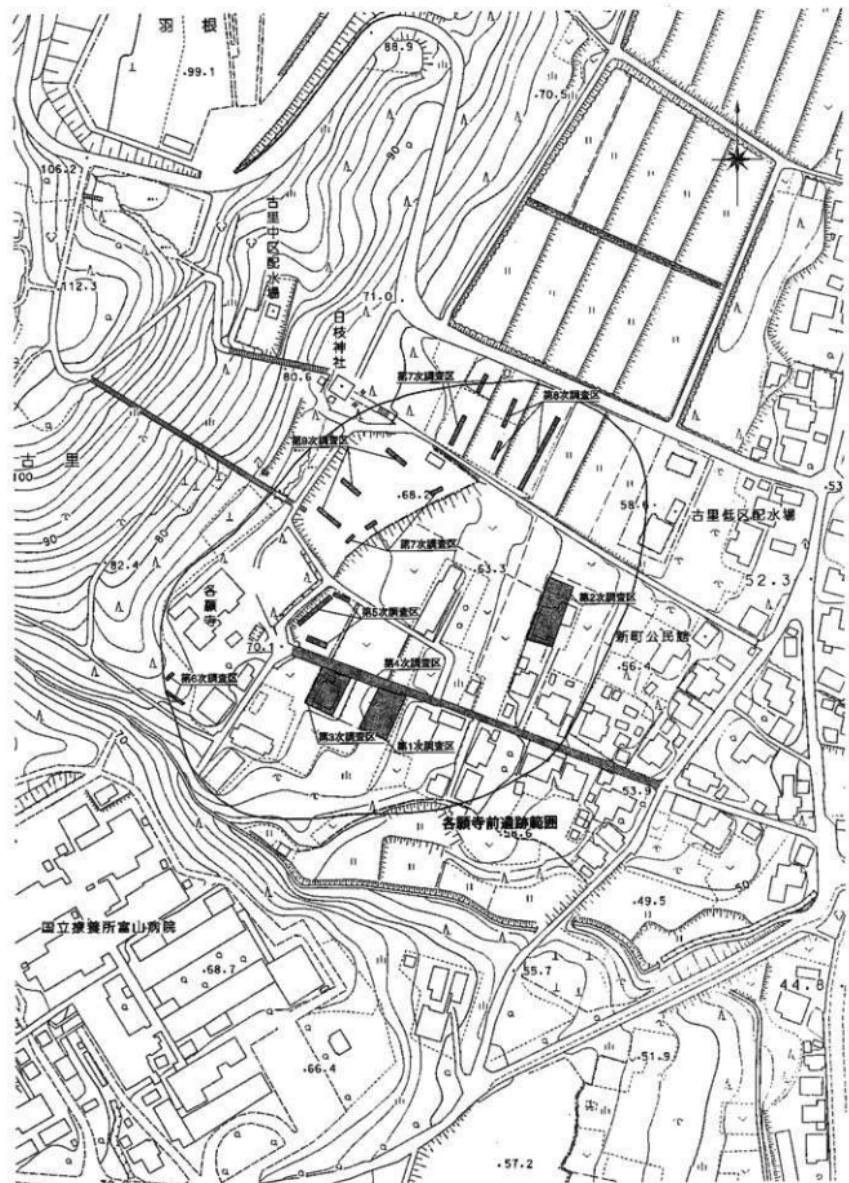
各頸寺前遺跡は、以前は長沢遺跡と呼ばれており、県下では古くから知れ渡っている遺跡である。今回の調査も含め過去10次にわたって調査されている。昭和60年の調査（第1次）では柱穴・土坑・溝を検出し、縄文土器・石斧・中世土師器・珠洲・銅器（仏具）が出土した。昭和62年の調査（第2次）では東西に走る中世の溝を検出し、縄文土器・須恵器・土師質土器・珠洲・越中瀬戸・瀬戸美濃・青磁が出土している。平成5年度の個人住宅建築に伴う本調査（第3次）では土坑・溝・ピットを検出し、縄文土器・石斧・中世土師器・珠洲・越前・美濃が出土した。平成6年度の農道舗装改良工事に伴う工事立会調査（第4次）では、縄文土器・磨製石斧・土師皿・珠洲・銅鏡が出土した。特に、珠洲壺に備蓄鏡が出土し、注目される。平成9年度のトイレ建設及び駐車場整備に係る試掘調査（第5次）では遺構は確認されず、縄文土器・近世陶磁器が出土した。平成10年度の個人住宅建築に伴う試掘調査（第6次）では遺構は確認されず、縄文土器・越中瀬戸が出土した（第2図）。

2 調査に至る経緯

婦中町新町地区は吳羽丘陵東麓の傾斜地に位置している。そのため、雨天時には降り注いだ雨が急流となって排水溝を東の平野側に向かって流れ出す。婦中町自然公園（桜の丘）を整備してからは、森林を切り開き、道路を整備したため、山に雨水を貯める力が減少し、豪雨の際に、降り注いだ雨が鉄砲水となって流れ出し、深刻な災害を引き起こす危険性が高くなってきた。そこで、公園を管轄する婦中町保健生活課（以下町保健生活課）では、雨水対策事業として、雨水が濁流となって一度に流れ出さないように、公園の近隣に調整池を設置することになった。しかし、予定地を含め周辺一帯は各頸寺前遺跡の埋蔵文化財包蔵地であるため、婦中町教育委員会（以下町教委）と協議を重ねた。そこで、平成14年度中に試掘調査を行い遺構の有・無を判断し、本調査対象となった場合は、平成15年度に本調査を行うことに決定した。それをうけ、平成14年4月の試掘調査（第7次）では丘陵側の田2枚911m²と公園駐車場2,925m²のうち東側を対象とし、結果、遺構・遺物とも確認されなかった。平成14年11月の試掘調査（第8次）では平野側の田2枚1,871m²を対象とし、今回の調査対象区の田で遺構・遺物が確認されたが、他では確認されなかった。試掘調査をまとめて一度に行わなかったのは、既に1枚の田で作付けが行われており、その田の刈取を待ってから試掘調査を行ったためである。その後計画変更等により、平成15年7月にも試掘調査（第9次）を行った。公園駐車場2,925m²のうち西側を対象とし、結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

3 調査の経過

試掘調査の結果が出たところで、本調査の必要が生じたため、事業主体である町保健生活課と町教委は再度協議を重ねた。平成15年度は春から夏にかけて別の本調査が計画に入っていたため、調査に入るには8月以降でないとスケジュール的に厳しく、また、本調査に入るには用地が買収済みであることが前提となる。町保健生活課より、用地買収交渉は8月中旬に終了し、登記等の手続も含めて9月中旬頃には目処がつく旨を受けた。ただし、排土置き場に予定していた田の刈取が冷夏の影響で半年より遅くなつたため、町教委では、9月24日より調査に入ることに決定した。9月24日からバック・ホウにより調査区の表土剥ぎを開始し、9月26日終了、その間、調査事務所を公園駐車場の北東端に設置した。調査グリッドの設営は表土剥ぎ作業終了後行い、9月29日から作業員15名により人力による掘削を開始した。天候にも恵まれたため、調査は比較的順調に進んだ。ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を（株）日本テクニカルセンターに委託し、11月14日に撮影作業を行った。人力掘削作業は11月18日で終了し、バック・ホウによる埋め戻しを12月1日に開始し、12月4日に終了し、これをもって現地調査を完了した。遺物はコンテナで15箱出土した。破片になったものが大半である。遺物洗浄、バインダー処理、注記作業を現地事務所で済ませ、現地作業終了後、接合作業を行い、口縁部等の残りのよいものを中心て実測図作成を行った。



第2図 過去の調査区位置図(1/2,500)

第3章 調査の概要

1 調査区と座標軸の設定

調査区は、開発対象の田4枚2,782m²のうち、平成14年11月におこなった第8次試掘調査の結果から、多数の遺構が見つかった最も下段の田1枚952m²を対象とした。傾斜地であるため、雨が降ると地滑りを起こし崩落する可能性を考慮し、東側は少し余裕を持って表土剥ぎを行った。座標軸は国土地理院設定の第VII座標系公共座標のうち、X=72,950、Y=-4,100を原点として設定した。南北軸をX軸とし、X=0から北方向に進むにしたがってX座標の数値が増える。同様に東西軸をY軸とし、Y=0から東方向に進むにしたがって、Y座標の数値が増える。1グリッドの区画は2m×2mを1単位とし、調査区の範囲はX=-1~25、Y=0~16となる（第4図）。

2 基本層序

基本層序はおよそ上からI層：耕作土、I'層：浅黄色粘質土+明黄褐色粘質土+黒褐色粘質土斑状混（田整地時盛土）、II層：黒褐色粘質土（間層、中世遺物包含層）、III層：黒褐色粘質土（遺物包含層）～暗褐色粘質土（漸移層）、IV層：にぶい黄褐色粘質土（地山）となる（第3図）。

調査区は現在水平な水田であるが、表土剥ぎ作業や排水清掃前作業による断面観察から、元々は傾斜した地形を調査区の西側約半分から斜面を削り、その土砂を標高の低い東側斜面へ盛土し平坦に整地されている。そのため、調査区西側半分は表土直下から地山となり、整地前は遺構が残っていた可能性は高いと考えられるが、現況では遺構は残っていない。調査区中央から調査区東端に向かって傾斜しており、東端では表土から約50cmまで地山が下がる。また調査区南側から調査区北側へ緩やかに傾斜しており、旧谷地形と考える。（細辻）

3 遺構

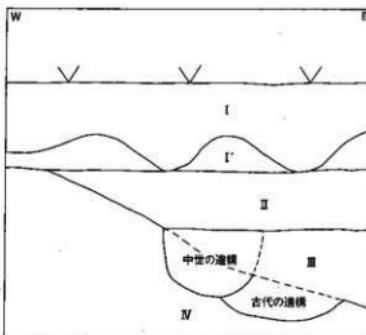
古代の遺構

S B324（第6図） X 5~7 Y 4~6付近に位置する1間×1間の掘立柱建物である。間尺はS P298-S P297間2.5m、S P297-S P320間2.2mである。S P297とS P298は不明であるが、S P320の規模は直径25cm、深さ32cmである。主軸方向はN-58°-Eである。遺物は出土しなかったが、S K167・S D166に上部が切られており、古代と判断した。

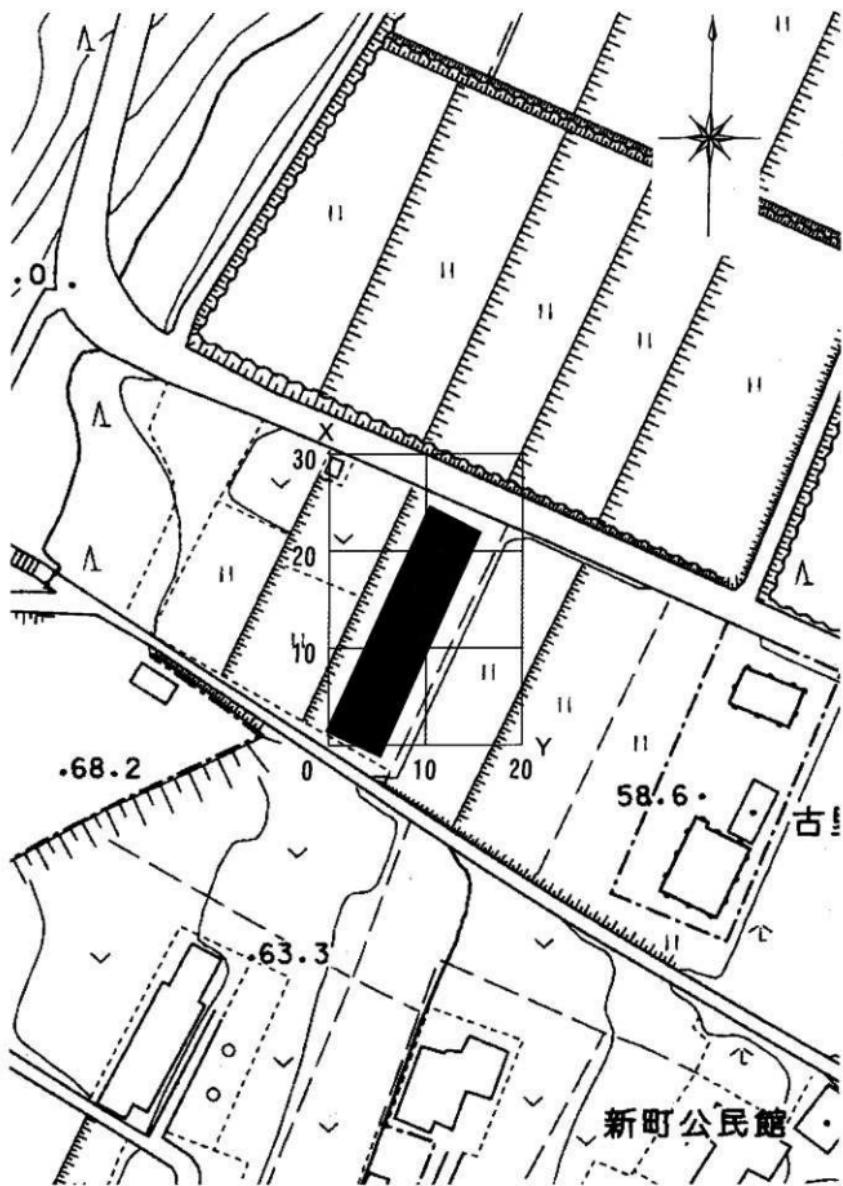
S B326（第6図） X 7~9 Y 4~6付近に位置する2間×2間に1間×1間の附属屋を伴う掘立柱建物である。間尺はS P194-S K102間1.8+1.8m、S K102-S K104間1.4+1.5m、S P194-S P83間1.9m、S P83-S P307間0.85+0.95m、S P307-S K100間0.9+0.9mである。柱穴規模は、S K102-S K104は直径62cm~75cm、深さ17cm~31cm、平均は直径71cm、深さ26cmである。その他は直径20cm~37cm、深さ18cm~26cm、平均は直径28cm、深さ23cmである。主軸方向はN-89°-Eである。遺物は出土しなかった。

S B332（第7図） X 15~17 Y 12~13付近に位置する4間×1間以上の掘立柱建物で、調査区東側に広がると考えられる。間尺はS K321-S P27間1.2+0.8m、S P27-S P25間1.1+1.2mである。方形の柱穴規模は一辺49cm~58cm、深さ28cm~49cm、平均は一辺53cm、深さ38cmである。方形の柱穴には、柱を抜き取ったと見られる痕跡が残る。主軸方向はN-14°-Eである。遺物は出土しなかった。

S K02（第7図） X 17~19 Y 12~13付近に位置する。平面形は不定形で、規模は、最も広い所で3.1m、深さは最も



第3図 基本層序模式図



第4図 調査区及びグリッド配置図 (1/1,000)

深いところで33cmを測る。埋土は黒褐色～黒色粘質土に地山・焼土・炭化物が粒状に少量混じり、遺構底部に地山が多量に混じる。遺物は須恵器杯A・杯B・杯蓋・土器器臺が出土した。8世紀後半に比定される。

S K20 X17Y13付近に位置する。平面形はやや歪な円形で、規模は、直径85cm、深さは32cmを測る。埋土は黒褐色粘質土で断面上層部に焼土が混じる。遺物は土器器底部がある。

中世の遺構

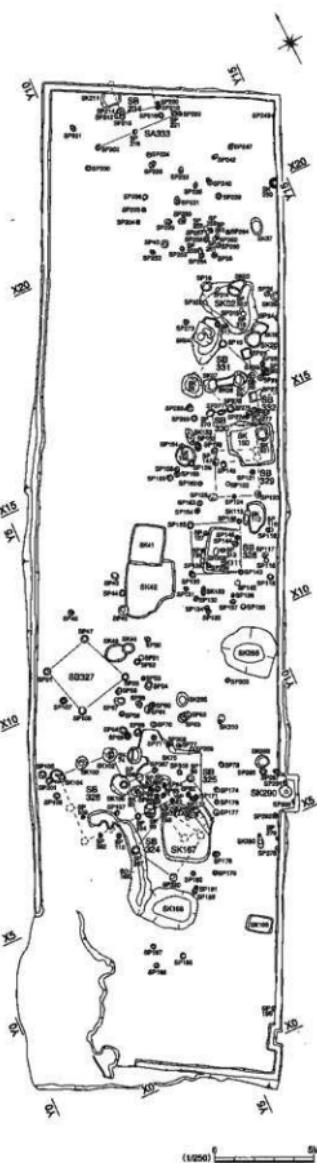
S K167 (第8図) X5～7Y6～7付近に位置する。平面形は隅丸方形の一角が突出しており、規模は、北東～南西2.85m、北西～南東2.5mで、深さは南方30cm、北方10cmを測る。北東壁沿いの底には10cm～40cm大の川原石が組まれており、その規模は長軸1.6m、短軸0.5mである。埋土は黒褐色粘質土に黒色粘質土・焼土混である。遺構の軸の方向はN-28°-Eである。石に被熱痕は特に見受けられなかった。突出した一角の一辺は1mを測り、出入り口として利用されたものか。遺物は中世土器皿、珠洲が出土地した。16世紀前半に比定される。

S B325 (第6図) X6～7Y6～7付近に位置する1間×1間の掘立柱建物。間尺はS P177-S P80間2.2m、S P80-S P89間2.1mである。柱穴規模は直径30cm～35cm、深さ18cm～48cm、平均は直径33cm、深さ35cmである。主軸方向はN-10°-Wである。遺物は出土しなかったが、S P80がS K75の上で検出されたことから、中世とした。

S B327 (第8図) X10～12Y5～7付近に位置する1間×1間の掘立柱建物。間尺はS P47-S P01間2.5m、S P01-S P106間2.7m、S P106-S P55間2.8m、S P55-S P47間2.9mである。柱穴規模は直径33cm～37cm、深さ17cm～36cm、平均は直径37cm、深さ23cmである。主軸方向はN-20°-Wである。遺物はS P55より青磁碗が出土した。14世紀代に比定される。

S B328 (第7図) X12～13Y9～11付近に位置する1間×1間の掘立柱建物。間尺はS P165-S P130間2.5m、S P130-S P143間2.5m、S P143-S P146間2.6m、S P146-S P165間2.5mである。柱穴規模は直径22cm～30cm、深さ14cm～40cm、平均は直径26cm、深さ25cmである。主軸方向はN-22°-Eである。遺物は出土しなかったが、S K111に伴うものとし、中世とした。

S B329 (第7図) X13～15Y10～12付近に位置する1間×1間の掘立柱建物。間尺はS P148-S P125間2.4m、S P125-S P120間1.1+1.2mである。柱穴規模は直径19cm～43cm、深さ22cm～



第5図 遺構配置図(1/250)

43cm、平均は直径32cm、深さ28cmである。主軸方向はN-26°-Eである。遺物は出土しなかった。

S B330 (第7図) X14~16Y11~12付近に位置する1間×1間の掘立柱建物。間尺はS P276-S P270間2.3m、S P270-S P147間2.5mである。柱穴規模は直径32cm~42cm、深さ16cm~20cm、平均は直径36cm、深さ19cmである。主軸方向はN-20°-Eである。遺物は出土しなかった。

S B331 (第7図) X16~17Y11~13付近に位置する1間×1間の掘立柱建物。間尺はS P272-S P31間2.3m、S P31-S P15間2.6mである。柱穴規模は直径30cm~35cm、深さ34cm~53cm、平均は直径33cm、深さ47cmである。主軸方向はN-24°-Wである。遺物は出土しなかった。

S K290 (第8図) X6Y9付近に位置する。排水溝掘削前に凝灰角礫岩製片口鉢が出土したため、平面形は不明であるが、円形と推定される。規模は直径60cm、深さ40cmを測る。埋土は黒褐色粘質土に地山粒状少量混であり、Ⅲ層との区別がつき難かった。片口鉢の埋土には地山が多量に混じっていた。遺物は片口鉢のみで、中世後半に比定される。

S K42 X12~13Y7~9に位置しSK41に切られている。平面形は隅丸長方形の一角を欠き、規模は北東-南西約3m、北西-南東2.5m、深さは最も深い所で23mを測る。埋土は黒褐色粘質土と地山が斑状に混じる。遺物は、石窓、杯H、中世土師器皿、珠洲、八尾が出土したが、中世のもの以外は流れ込みと考えられる。X14~15Y11~13に位置するSK150と似た形態、埋土であり、同じ性格と考えられる。

S K111 X12~13Y10~11に位置する。東側は試掘トレンチで切られているため不明であるが、平面形は方形と思われ、検出した規模は、2.3m×1.5m、検出面が斜面のため、深さ平均9cmを測る。埋土は黒褐色～黒色粘質土に地山粒状少量混である。SB328の内側に掘り込まれている。遺物は八尾が出土し、SK42出土の破片と接合した。

S K168 X4~5Y5~6に位置し、SD166に切られている。平面形は隅丸長方形で、長軸2.75m以上、短軸2.05m、深さは最も深い所で29cmを測る。埋土は黒褐色粘質土に地山多量混である。掲載していないが、ほぼ球形の石が2点出土した。

S K296 X9~10Y9~10に位置する。一部試掘トレンチに切られているが、平面形は不定形で、規模は長軸2.6m、短軸2.35m、深さは最も深い所で35cmを測る。遺物は中世土師器皿、青磁碗が出土した。

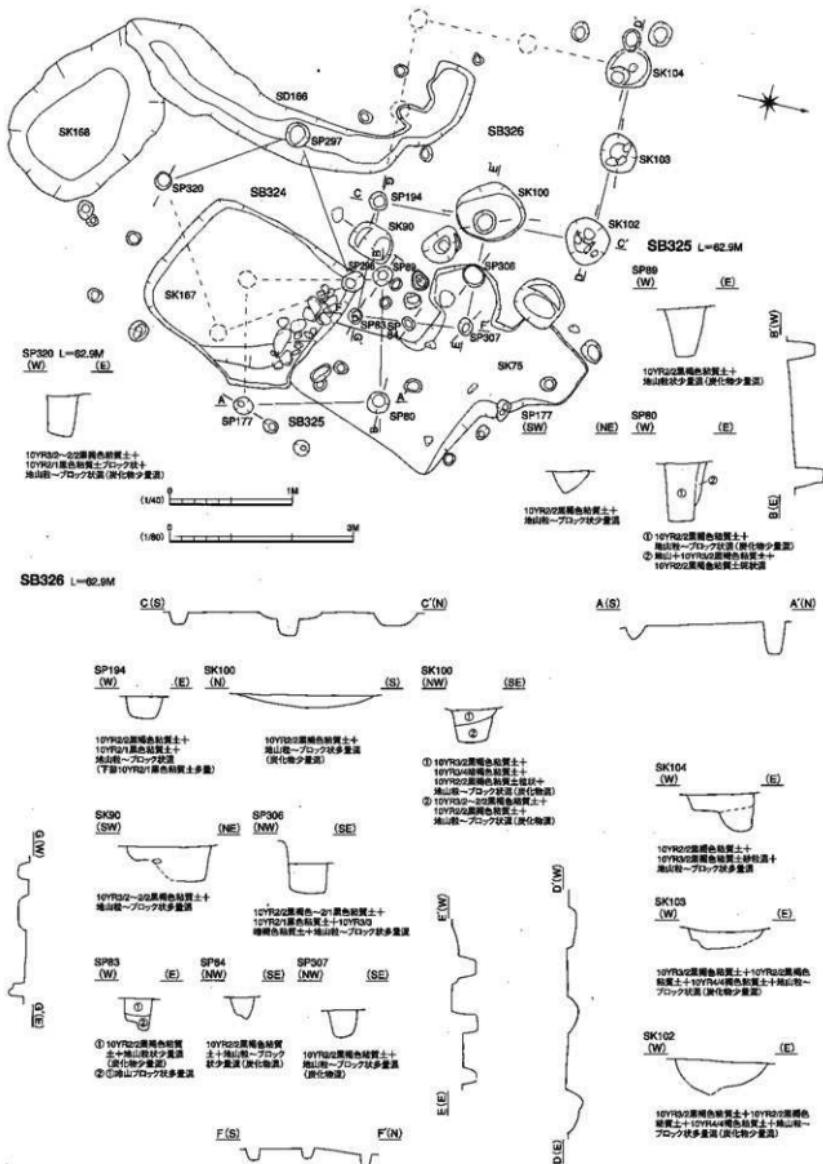
その他の遺構

S K41 X13~14Y8~9に位置する。平面形は長方形、規模は北東-南西2.05m、北西-南東1.75m、深さ13cmを測る。埋土は黒褐色粘質土と黒色粘質土と地山が斑状混である。遺物は「昭和14年」の年号がある一錢硬貨が1枚出土した。

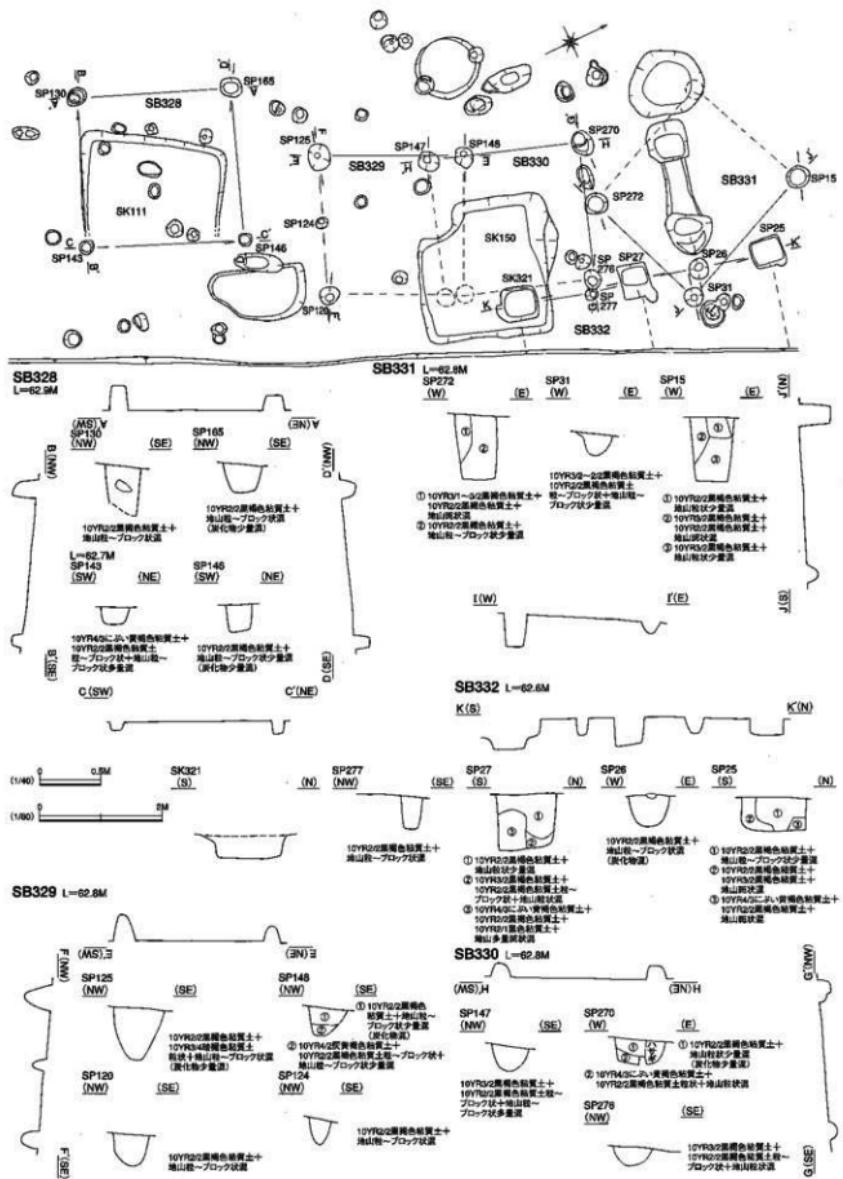
S B334 (第8図) X24~25Y12~13付近に位置する1間×1間の掘立柱建物で、調査区北側に広がると考えられる。間尺はS P212-S P219間2.1mである。柱穴規模は直径28cm、深さ14cmである。主軸方向はN-80°-Wである。遺物は出土しなかった。

S A333 (第8図) X23Y11~14付近に位置する2間の構列。間尺はS P202-S P218間2.0+1.6mである。柱穴規模は直径23cm~24cm、深さ13cm~17cm、平均は直径23cm、深さ15cmである。軸方向は、N-87°-Eである。遺物は出土しなかった。

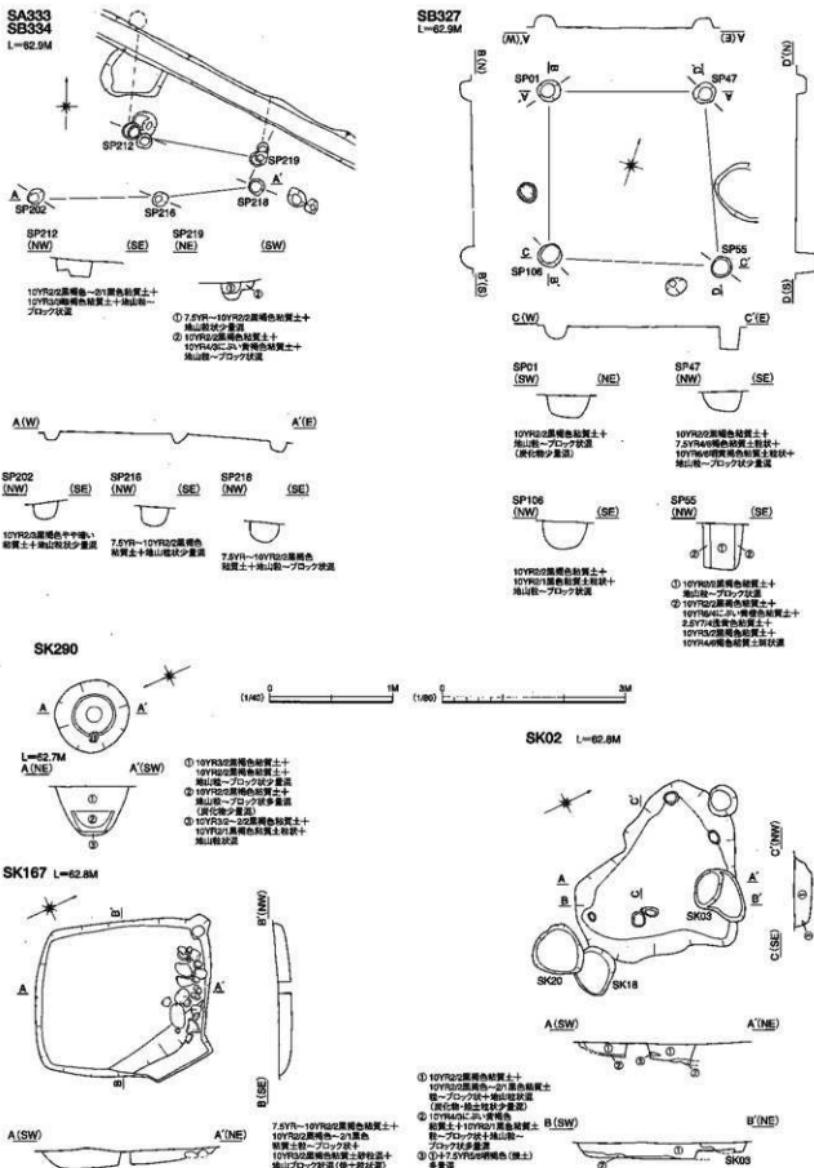
(河竹)



第6図 SB324・325・326平面図及びエレベーション(1/80), ピット断面図(1/40)



第7図 SB328・329・330・331・332平面図及びエレベーション(1/80), ピット断面図(1/40)



4 遺物

器種別細別形式分類（第9図）なお、個別の遺物については、観察表を参照していただきたい。

須恵器 出土した器種は、杯蓋、杯、鉢、壺蓋、短頸壺、高杯等がある。

杯蓋 (杯蓋A) 口縁端部の断面が三角形を呈するもの。

(杯蓋B) 口縁端部を内側に屈曲させるもの。

(杯蓋C) 口縁端部を内側に巻き込むもの。

C 1 口縁端部外面が短く外反するもの。

C 2 口縁端部外面が短く丸いもの。

C 3 口縁端部が長く傾斜して伸びるもの。

C 4 口縁端部が長く屈曲して平行に伸びるもの。

杯 (杯A) 高台がつかないもの。

A 1 体部が外傾するもの。

A 2 口径が大きく皿型を呈するもの。

(杯B) 高台が付くもの。

B 1 体部が外側上方に立ち上がるもの。

B 2 口径が大きく体部が垂直に近く立ち上がるもの。

B 3 器高が高く大型のもの。

(杯H) かえりをもつものの。

土師器 出土した器種は、椀、小型甕、壺等がある。

椀 A 内面を黒色処理したもの。

B 内面を黒色処理しないもの。

小型甕 A 口縁端部を丸くおさめるもの。

B 口縁端部を面取りし下部に下がるもの。

C 口縁端部が丸みを持ち外面に沈線が入るもの。

D 口縁端部が内に屈曲するもの。

中世土師器 全て非ロクロ成形である。

1類 平らな底部から、やや丸みのある体部が外傾して立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。

2類 小皿。平らな底部から、体部が浅く開き、短い口縁部が緩く内湾する。口縁端部は丸くおさめる。

3類 平らな底部から、やや丸みのある体部が外傾して緩く立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。

4類 丸みのある底部から、体部が直線的に開き、口縁端部は丸くおさめる。器壁は厚い。

5類 丸みのある底部から、やや丸みのある体部が開く。口縁端部は鋭く仕上げる。

6類 平らな底部から、やや丸みのある体部が浅く開く。口縁端部は鋭く仕上げる。

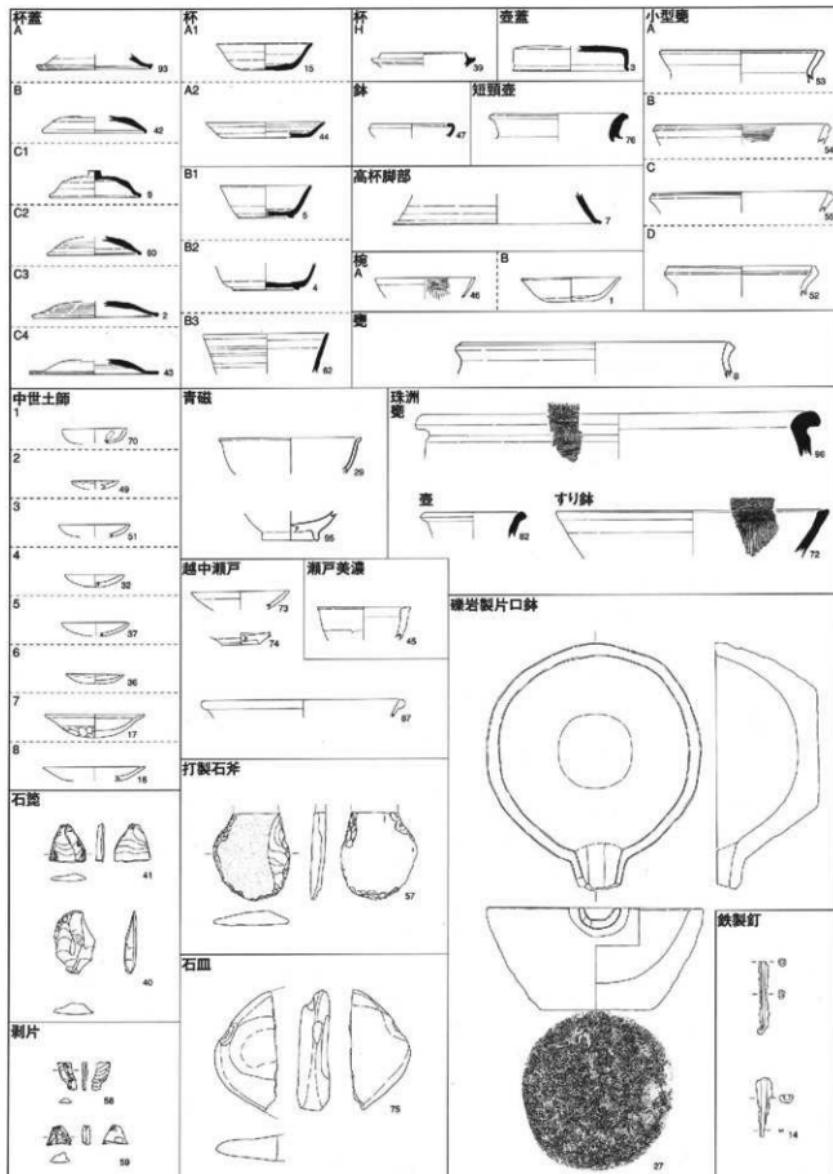
7類 丸みのある底部で、口縁部がくびれをもち外反する。口縁端部を摘み上げるものもある。

8類 平らな底部で、口縁部がくびれをもち外反する。口縁端部を摘み上げるものもある。

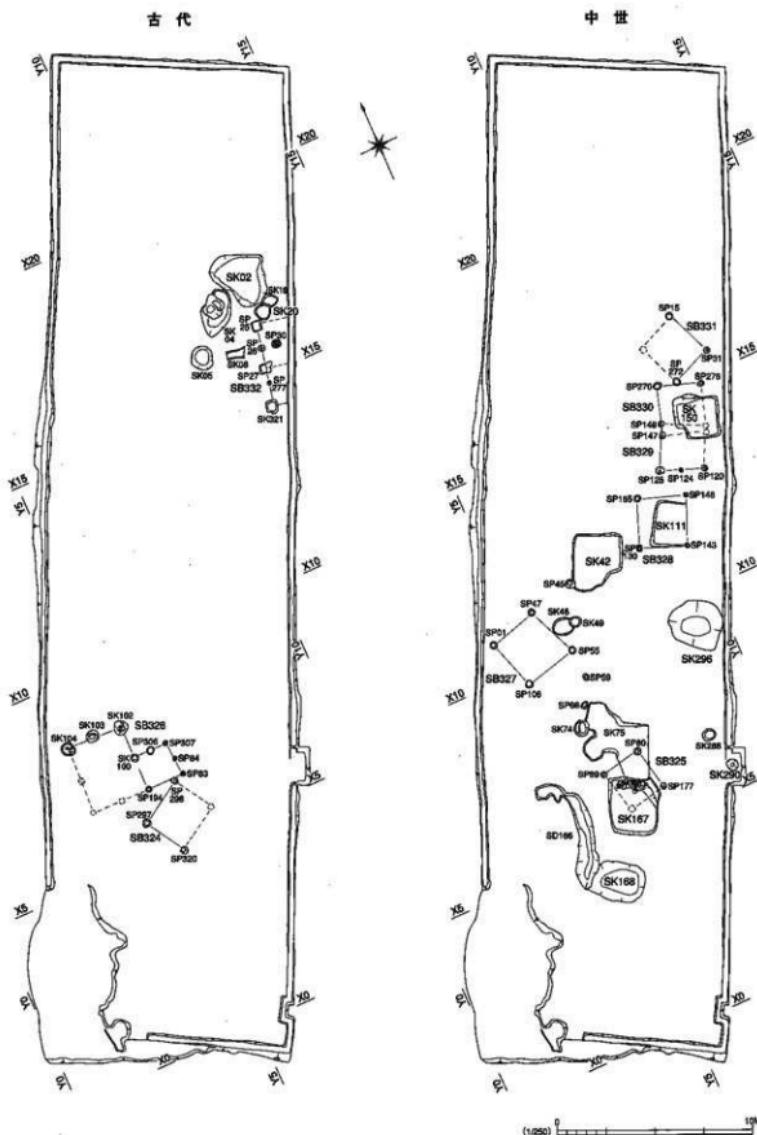
その他、青磁・碗、珠洲・壺・壺・捕鉢、越中瀬戸・皿、瀬戸美濃・碗等がある。

石製品には、縄文時代の石範、打製石斧、剥片、石皿、中世後半の凝灰角砾岩製片口鉢がある。

金属製品には、鉄製釘、一錢硬貨がある。



第9図 器種分類図(27は1/8, その他は1/6)



第10図 時代別遺構配置図(1/250)

第4章まとめ

今回の各願寺前遺跡の調査では、奈良・平安時代の遺構、中世の遺構、近代以降の遺構を確認した。

奈良・平安時代の遺構には掘立柱建物3棟・横列・溝・土坑がある。遺物の時期はおおむね8世紀後半から9世紀に収まると考える。中世の遺構には掘立柱建物6棟・溝・石組遺構・土坑がある。遺物の時期はおおむね14世紀から16世紀前半に収まると考える。その他、昭和の遺物が出土した土坑がある。

遺構の分布状況としては、調査区の北半分、現各願寺から離れたところに古代の遺構、調査区の南半分、現各願寺寄りに中世の遺構が集中して分布する、という傾向がある。中世の遺構に古代の遺構が破壊されている可能性も否定できないが、あるいは各願寺の創建当時の遺構と、中世に再興されたものとは建物配置がちがっていて、寺名は同じでも外観は全く違っていたであろうと考えられる（第10図）。

遺物が伴う遺構が少なく、時期を特定するのが困難なものが多かった。しかし、わずかな遺物と、古代の遺構は、S K02のように埋土が黒で割と均質なのに対し、中世以降の遺構では、S P55のように地山の黄色い粘質土で裏込めをした柱穴があり、黒一色でなく混じりが多い埋土の遺構が、黒い均質な埋土の遺構に切り合った関係で勝っている、という傾向がある。それらを元に時期を判断した。S B322は柱穴の規模等から、新町II遺跡で検出された大溝掘立柱建物に類似しているといえる。立地等を考慮すると、谷を挟んで存在していた可能性がある。S B328とS K111は掘立柱建物を伴う竪穴状遺構と考えられ、類例に道場I遺跡S X209・S B11、小杉町黒河尺目遺跡S X1344・S B35がある。過去の報告・論文には性格としては「土蔵」「倉庫」であると想定されている。同じくS K167は方形の土坑の内部に石列を持つ竪穴状遺構と考えられる。類例としては中名V遺跡S K5092、清水島II遺跡S K145がある。本遺跡の場合、遺構が寺院に関連するものであれば、集落の一般的な住居より、儀事等に使う特殊な用途の物・長期間収蔵しておく物の点数が多く収納スペースの占有面積が多く必要とされ、「土蔵」「倉庫」を多く建てた可能性は高い。

S K41は、昭和14年の年号がある一錢硬貨が出土し、類似した埋土の土坑もいくつかあるので、それらは近代の耕作に伴う遺構と考えられる。

遺物では、上記の時代の遺物の他、繩文土器もわずかに出土している。遺構からの出土はなく、碎片のため、図化・掲載はできなかったが、掲載した石器も出土したことを合わせて勘案すると、近隣、あるいは削平された西側斜面に遺構が存在した可能性は極めて高い。また、中世後期の完形の凝灰角礫岩製片口鉢が出土した。普通、こういった食物と関連があるような遺物は神聖視され、麻糬の際に「魂抜き」として故意に割ってから処分されていたようで、完存のものが出土することは少ない。財団が調査した福光町梅原胡摩堂遺跡でも10数点の出土例があるが、完形のものはない。完形のものは小矢部市桜町遺跡田地区の調査で出土しているが、小矢部の類例は井戸の中から出土したのに対し、本遺跡のものは掘方を鉢の大きさに合わせた土坑から出土し、当初から埋納する意図があったと考えられる。何のために埋納したのかは不明である。あるいは、食物とは関連のない使用目的だったのかもしれない。遺構・遺物の性格を明らかにするには今後の類例の増加を待ちたい。

（細辻）

参考文献

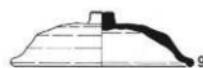
- あ 内田亜紀子2000「越中姫負郡の古代土器と煮沸具—城中町中名I・V・VI遺跡の竪穴住居出土資料を中心にして—」『富山考古学研究』第3号
- 大川清・鈴木公雄・工楽善通編1996『日本土器事典』雄山閣
- 小矢部市教育委員会1984「富山県小矢部市桜町遺跡—城山都市下水路新設工事に伴う産田地区の調査—」小矢部市埋蔵文化財調査報告書第15号
- か 加藤晋平・鶴丸俊明1980『図録石器の基礎知識II—先土器(下)』柏書房

- さ 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1997『埋蔵文化財調査概要—平成8年度—』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1998『五社遺跡発掘調査報告書』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2002『清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調査報告』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2003『中名Ⅰ・V遺跡発掘調査報告』
- た 富山県教育委員会1972『富山県井波町高瀬遺跡発掘調査概報』
富山県教育委員会1972『入善町じょうべのま遺跡発掘調査概報』
- な 入善町教育委員会1971『じょうべのま調査概報』
- は 婦中町1967『婦中町史』
婦中町1997『婦中町史』
婦中町教育委員会1986『新町Ⅱ遺跡の調査—富山県婦中町新町所在の古代・中世遺跡調査報告—』
婦中町教育委員会1993『富山県婦中町小倉中稻遺跡発掘調査報告』
婦中町教育委員会1994『富山県婦中町小倉中稻遺跡発掘調査報告（2）』
婦中町教育委員会1994『富山県婦中町各願寺前遺跡発掘調査報告』
婦中町教育委員会1995『千坊山遺跡（1）』
婦中町教育委員会1996『千坊山遺跡（2）』
婦中町教育委員会1998『千坊山遺跡（3）』
婦中町教育委員会1997『富山県婦中町友坂遺跡発掘調査Ⅲ』
婦中町教育委員会2001『文化財を防ねて』
婦中町教育委員会2003『富山県婦中町鍛冶町遺跡発掘調査報告』
北陸中世土器研究会1993『第6回北陸中世土器研究会 中世北陸の家・屋敷・暮らししぶり』
- ま 三島道子2001『黒河尺目遺跡の堅穴状造構について』『富山考古学研究』第4号
宮本長二郎1986『平城京—古代の都市計画と建築—』日本人はどうに建造物をつくってきたか？ 草思社
や 吉岡康暢1989『珠洲の名陶』珠洲市立珠洲焼資料館

SK02



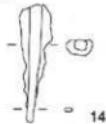
SK04



SK20



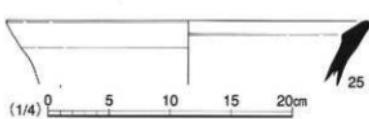
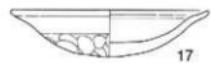
SK08



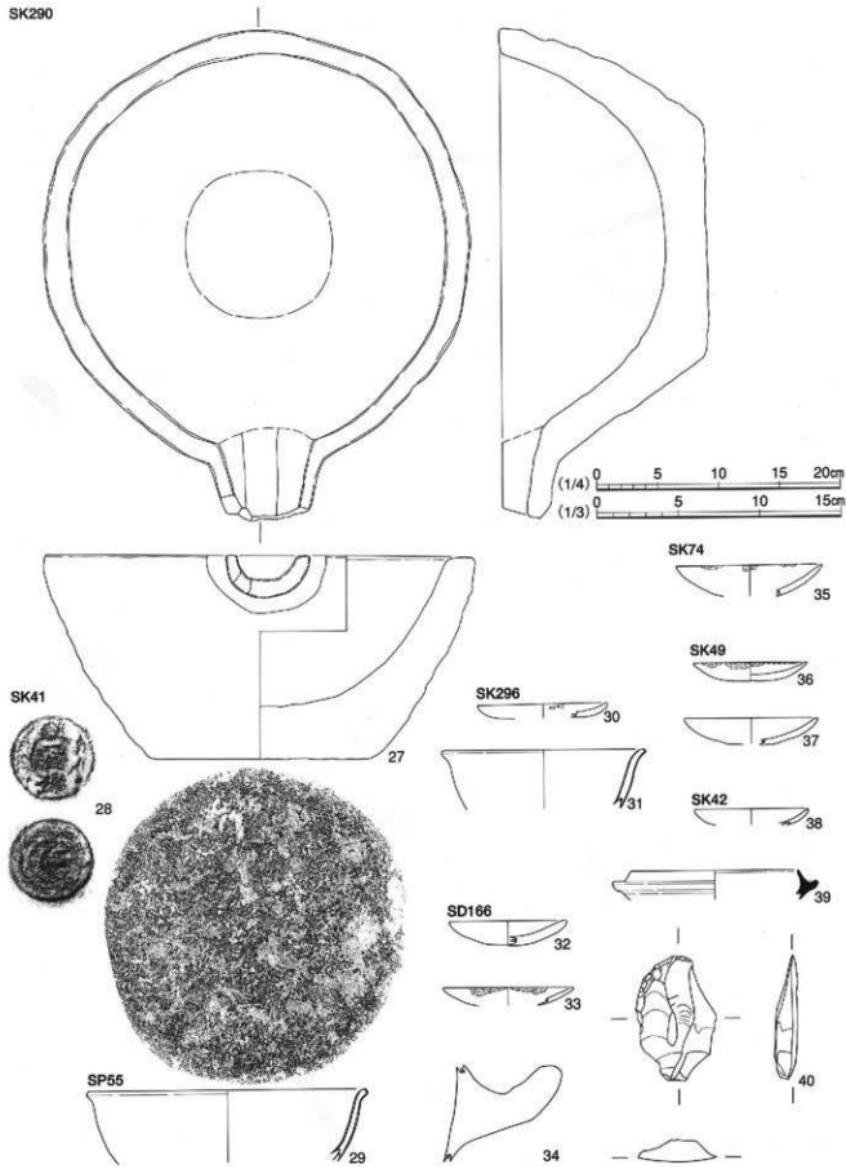
SP30



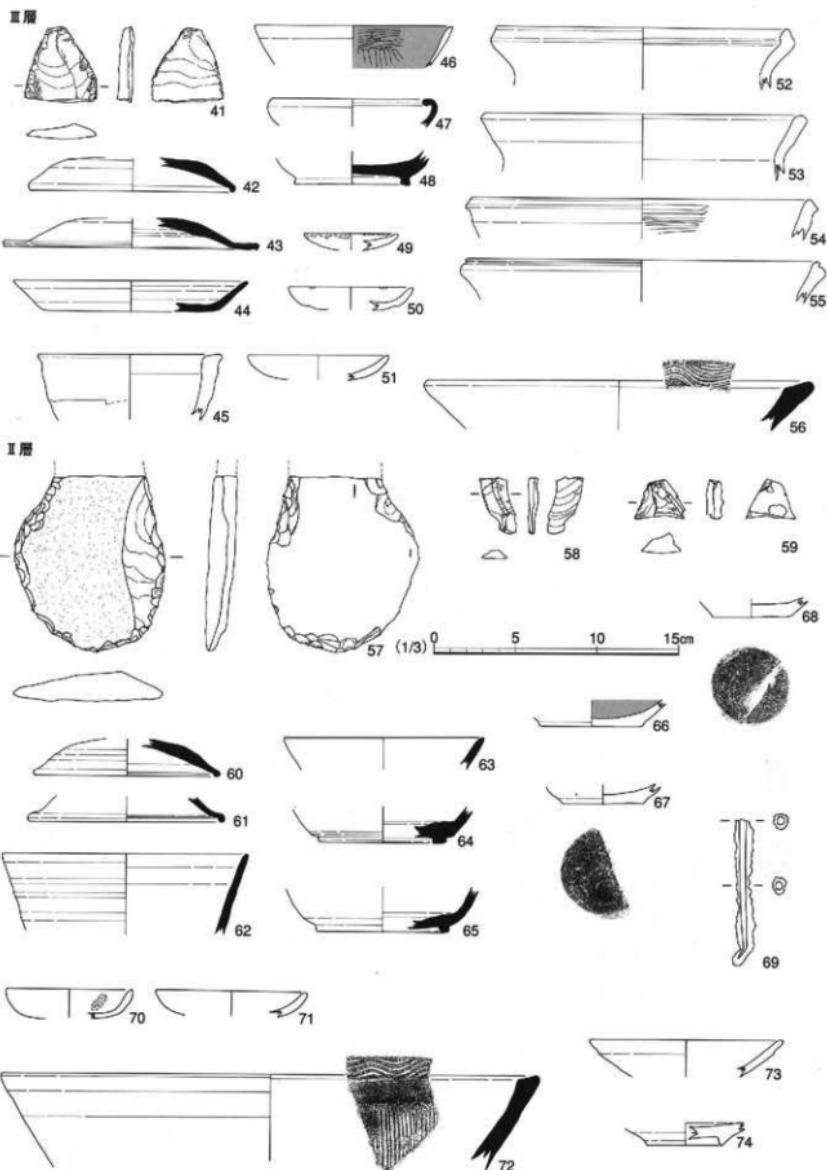
SK167



第11図 遺物実測図(1)(8は1/4, その他は1/3)

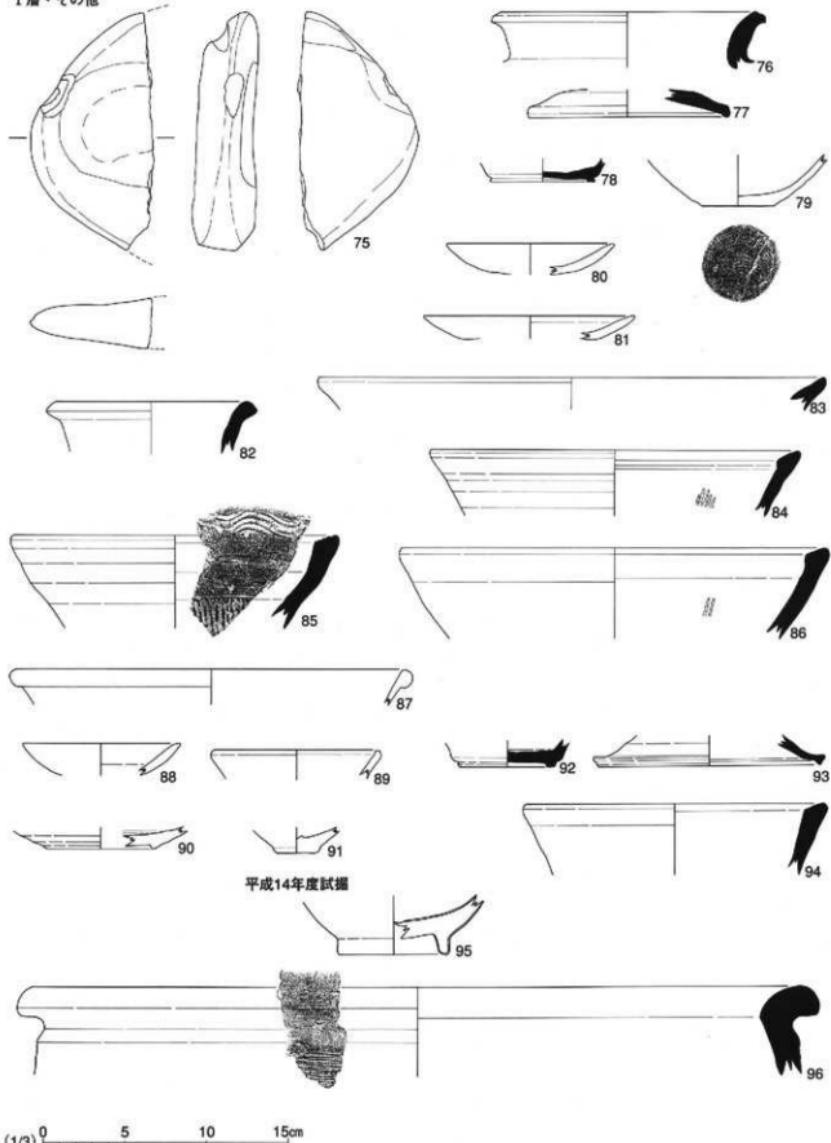


第12図 遺物実測図(2) (27は1/4, 28は1/1, その他は1/3)



第13図 遺物実測図(3)(1/3)

I層・その他



平成14年度試掘

(1/3) 0 5 10 15cm

第14図 遺物実測図(4)(1/3)

表2 遺物觀察表(1)



図版1 航空写真(1/20,000、上が北)

昭和20年 米軍撮影



図版2 検出遺構

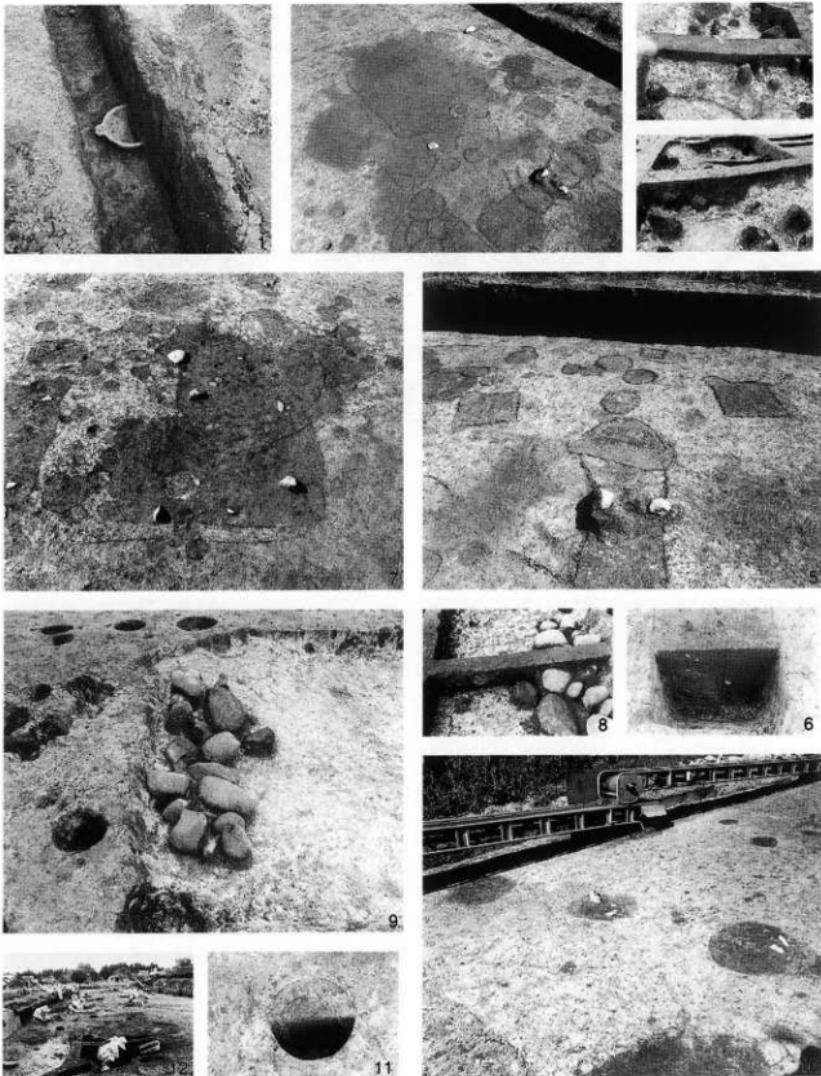


1



2

圖版 3 1. SK02付近完掘 2. SK167付近完掘



図版4 1. SK290出土状況(南から) 2. SK02検出状況(西から) 3. 4. SK02東西断面 5. SP27付近検出状況(西から)
6. SP27断面(東から) 7. SK167付近検出状況(東から) 8. SK167南北断面(東から)
9. SK167石列検出状況(西から) 10. SK102・103・104検出状況(南から) 11. SP55断面(南から) 12. 作業風景



1

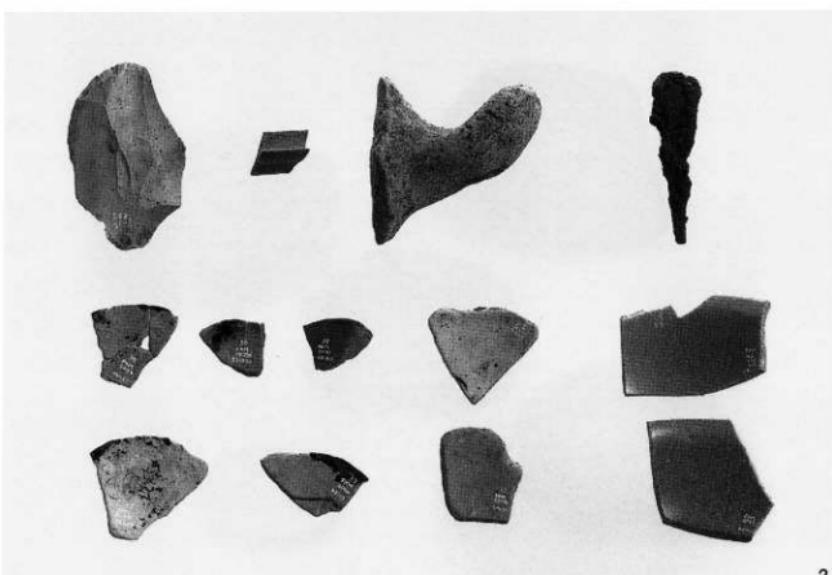


2

圖版 5 1. 古代遺構出土遺物 2. SK167出土遺物

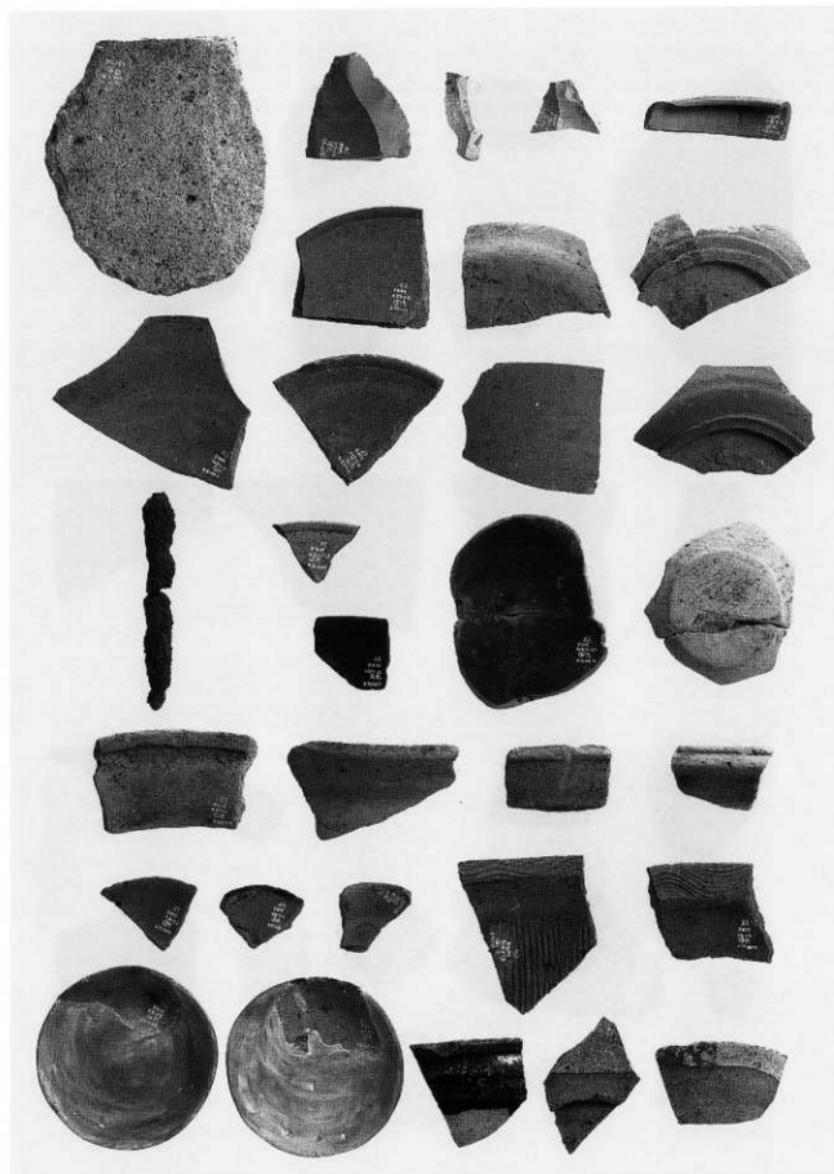


1

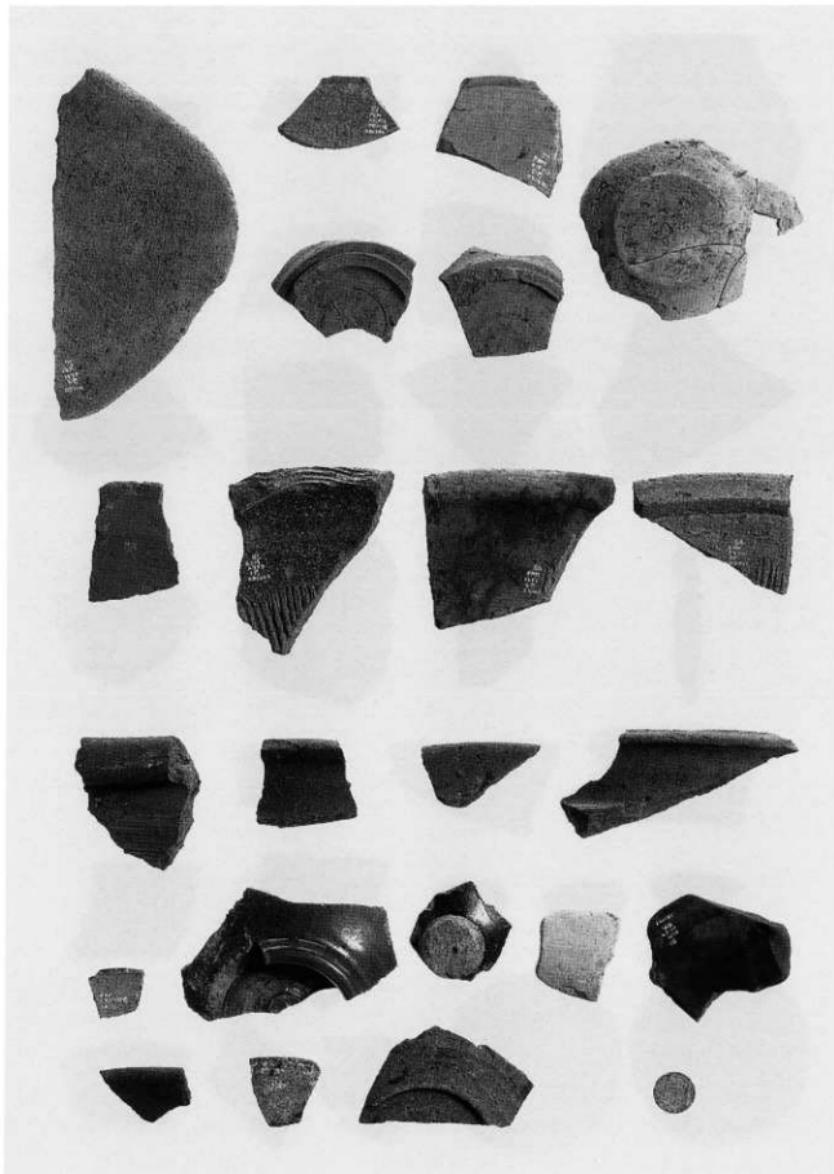


2

圖版 6 1. SK290出土遺物 2. 遺構出土遺物



図版7 II層・III層出土遺物



図版8 I層その他出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とやまけんふちゅううまちかくがんごまえいせきはつくちょうさほうこくに							
書名	富山県婦中町各願寺前遺跡発掘調査報告Ⅱ							
編集者名	細辻嘉門、河竹明子							
シリーズ名	婦中町自然公園(桜の丘)雨水対策事業に先立つ埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告							
編集発行機関	婦中町教育委員会							
所在地	〒939-2727 富山県婦負郡婦中町砂子田1-1 TEL 076-465-3113							
発行年月日	2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かくしんじまえ 各願寺前遺跡	とやまけん ねいぐん 富山県婦負郡 ふちゅうまち しんせき 婦中町新町	362	025	36度 39分 16秒	137度 07分 24秒	030924~ 031204	693.8m ²	婦中町自然公園(桜の丘)雨水対策事業に係る事前調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項
各願寺前遺跡	集落	縄文	掘立柱建物3棟・樋列 ・土坑			縄文土器・石器・石皿・ 剥片		
		古代				古代土師器・須恵器・ 鉄釘		
		中世	掘立柱建物6棟 溝・樋列・石組遺構 土坑			中世土師器・珠洲・ 青磁・瀬戸美濃・ 石製片口鉢		
		近世以降	土坑			越中瀬戸・古銭		

富山県婦中町
各願寺前遺跡発掘調査報告Ⅱ

平成16年3月31日

編集 婦中町教育委員会
発行 婦中町教育委員会
富山県婦負郡婦中町砂子田1-1
印刷 とうざわ印刷工芸株式会社